

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	秋田工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	創造システム工学科 機械系	夜・通信	0	7	2	9	7	
	創造システム工学科 電気・電子・情報系	夜・通信			0	7	7	
	創造システム工学科 物質・生物系	夜・通信			2	9	7	
	創造システム工学科 土木・建築系	夜・通信			3	10	7	
	グローバル地域創生工学専攻 (機械工学コース) (電気情報工学コース) (物質工学コース) (建設工学コース)	夜・通信	0	11	0	11	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校HPで公表している。 https://www.akita-nct.ac.jp/syugakushien/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	秋田工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/release/independence#link01

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	国立高等専門学校 理事（2024年4月1日～2026年3月31日）	2026年4月1日～2029年3月31日	理事長
常勤	文部科学省官房参事官（命）文部科学戦略官	2026年4月1日～2026年10月15日	総務
非常勤	東京大学教授	2026年4月1日～2028年3月31日	ダイバーシティ
常勤	東北大学工学研究科長	2026年4月1日～2028年3月31日	研究・産学連携 茨城工業高等専門学校校長兼務
(備考) 理事長は2024年3月31日まで九州大学大学院総合理工学府長・研究院長			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	秋田工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画(シラバス)の作成過程 事務担当者からの作成依頼に基づき、Web シラバスシステムを活用し、授業担当教員が必要事項を入力している。到達目標、成績評価の方法や基準といった事項については、システムの様式が全高専統一の基準にて設定されているため、遺漏なく入力されている。 ・授業計画の作成・公表時期 授業計画の作成は、12月に授業担当教員に作成依頼を行い、1月と2月に1次締切、2次締切を設けている。公表時期については、Web シラバスシステムを活用しているため、4月に高専機構本部にて一斉に公開設定を行っている。 	
授業計画書の公表方法	<p>インターネット上で公表している。 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=08</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位授与または履修認定の厳格かつ適正な実施状況 「秋田工業高等専門学校学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則」に基づき、厳格かつ適正に単位授与及び履修認定を実施している。 <p>【規則6条及び7条抜粋】 (試験の成績の評価) 第6条 学期の成績は、その学期において実施した試験の成績及び平素の成績等を総合して100点法により評価する。 (学年成績の評価及び評定) 第7条 各科目の学年成績は、当該授業科目の実授業時数の4分の3以上の出席がある科目について、試験の成績及び平素の成績を総合して100点法により評価し、次の区分により優、良、可、不可の評語で評定し、優、良、可を合格とする。出席が当該科目の4分の3に満たない場合は、第1学年から第3学年は49点以下、第4学年及び第5学年は59点以下の点数で評価して、不可と評定する。ただし、運営会議が認める理由(長期病欠その他)で、3分の2以上の出席がある場合については、4分の3以上の出席がある場合と同様に評価し、優、良、可又は不可で評定する。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

・客観的な指標の具体的な内容

シラバスに掲載されている指標に基づき、成績提出時に100点満点での点数が科目担当教員から報告されている。その提出された全科目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)。

・客観的な指標の適切な実施状況

100点満点で提出された成績の全科目合計点の平均を算出するとともに、その平均点により席次を決定している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

本校HPで公表している。
<https://www.akita-nct.ac.jp/syugakushien/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

○本科ディプロマポリシー (卒業認定方針)

秋田高専では、目標とする人材を育成するため、以下に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位 (一般科目 80 単位以上, 専門科目 87 単位以上, 合計 167 単位以上) を修得した学生に対して卒業を認定する。() は校訓・教育理念である。

1. 豊かな人間性を備え、多様な価値観を理解し、技術者として責任ある行動がとれる。
2. 自然科学および工学基礎について専門的な知識と技術を有する。
3. 自主的に学び、自ら問題を発見・解決する能力を備え、協働して物事に取り組むことができる。
4. コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付け、グローバルな視野で物事を考えることができる。
5. 専門知識、融合複合領域の知識を統合し、創造力を組み合わせて問題を解決することができる。

1~5 の細目は以下の A~E にそれぞれ対応する。

(A) 人類の幸福

(A-1) 自国と他国の社会と文化の違いを認め、健全で多様な価値観を理解できる。(健康・誠実)

(A-2) 技術者倫理を理解し、技術者として責任ある行動をとることができる。(責任)

(B) 工学基礎知識の修得

(B-1) 数学、自然科学および情報技術に関する基本的知識を修得している。

(B-2) 基礎工学と専門基礎の知識や技術を修得し、基本的な現象やシステムに対して説明と問題解析ができる。

(C) 専門的知識の充実

(C-1) 得意とする専門分野の問題を発見し、解決することができる。(自立)

(C-2) 実験・実習科目を通して実践的な知識を身に付ける。

(C-3) 企業での実体験などをもとに、地域や社会の要求している内容を理解できる。

(協働)

(C-4) 限られた時間内で、個別に、あるいはチームワークによって、技術的問題を含む課題に取り組み解決することができる。(協働・挑戦)

(D) コミュニケーション能力

(D-1) 正しい日本語で表現 (記述・口述・討論) することができる。

(D-2) 英語によるコミュニケーションに必要な基本的能力を身に付ける。

(E) 技術の発展

(E-1) 専門領域および複合領域の専門知識を統合して、目的を達成するための問題解決とデザインに寄与できる。(挑戦)

(E-2) 技術分野の問題を理解し、自主的継続的に学びながら、開発・研究を行ってゆくことができる。(創造・研究)

【機械系】

機械系では、以下の資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

1. 機械システムコースでは四力学 (材料力学, 機械力学, 熱力学, 流体工学) を中心とした機械工学の基礎を修得するとともに、種々のエネルギー変換, 動力変換, 新素材等および加工技術に関する高度な専門知識を持ち、工学問題を解決するための総合的かつ実践的な能力を身につけることができる。

2. 知能機械コースでは四力学 (材料力学, 機械力学, 熱力学, 流体工学) を中心とした機械工学の基礎を修得するとともに、電気・電子, 自動制御, 計測および情報処理技術に関する高度な専門知識を持ち、工学問題を解決するための総合的かつ実践的な能力を身につけることができる。

【電気・電子・情報系】

電気・電子・情報系では、以下の資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

1. 電気エネルギーシステムコースでは持続的発展型社会の基盤となる電気エネルギーの発生と供給、それを利用する機器とシステムに関する専門知識を有する実践的創造能力を發揮することができる。
2. 情報・通信ネットワークコースでは高度情報化社会の基盤となる情報処理と通信などの情報システムに関する専門知識を有する実践的創造能力を發揮することができる。

【物質・生物系】

物質・生物系では、以下の資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

1. マテリアル・プロセス工学コースでは機能性材料の合成・評価や製造プロセスの運転・最適化に対応できる実践的技術を有し、持続可能な社会に貢献することができる。
2. バイオ・アグリ工学コースでは生物を活用した有用物質の生産・評価やバイオテクノロジーに関わる高度な実践的技術を有し、持続可能な社会に貢献することができる。

【土木・建築系】

土木・建築系では、以下の資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

1. 国土防災システムコースでは防災と環境保全に配慮した土木に関する知識と技術を体系的に有し、関連分野における知識を複合的に活用して課題解決に適用できる。
2. 空間デザインコースでは建築および都市空間に関する知識と技術を体系的に有し、関連分野における知識を複合的に活用して課題解決に適用できる。

○専攻科ディプロマポリシー（修了認定方針）

専攻科では、目標とする人材を育成するため、準学士課程で修得した基礎及び専門技術に加え、以下に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位（一般科目 12 単位以上、専門科目 50 単位以上、合計 62 単位）を修得した学生に対し修了を認定する。

1. 工学分野で共通して必要となる幅広い自然科学・社会文化の知識を有する。
2. 自らの専門分野を基盤とし、他の専門領域との融合を可能とする分野横断能力を身に付け、広い視野で思考する力を有する。
3. 日本語による表現能力（記述・口述・討論）と科学技術の国際化に対応できるコミュニケーション能力を備えている。
4. 自ら課題を発見し、想像力を發揮するとともに、他者と協働しながら問題を解決へと導くことができる。

機械工学コースでは、以下の資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。

1. 新たな機械システムや知能機械などの開発・製造並びに応用技術に関する高度な知識と技術を体系的に有し、工学的課題の解決に応用できる。

電気情報工学コースでは、以下の資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。

1. ICT を駆使した先端デバイスによる電気機器システム並びに応用技術に関する高度な知識と技術を体系的に有し、工学的課題の解決に応用できる。

物質工学コースでは、以下の資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。

1. 新物質・生体由来素材等の製造並びに応用技術等に関する高度な知識と技術を体系的に有し、工学的課題の解決に応用できる。

<p>建設工学コースでは、以下の資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。</p> <p>1. 社会基盤の整備・防災・保全技術，都市及び地域の計画・デザイン技術に関する高度な知識と技術を体系的に有し，工学的課題の解決に応用できる。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	学校HPで公表している。 https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	秋田工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/zaimusyohyoR6.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
収支計算書又は損益計算書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/zaimusyohyoR6.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
財産目録	
事業報告書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/R6jigyohoukoku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
監事による監査報告(書)	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/R6jikotennkennhyouka.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和8年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/r7-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:令和6年度から令和10年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/5th-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:学校HPで公表している。 https://www.akita-nct.ac.jp/data/evaluation/
--

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法：学校HPで公表している。

<https://www.akita-nct.ac.jp/school/evaluation-2/>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 創造システム工学科
教育研究上の目的（公表方法：学校HPで公表している。 https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/ ）
<p>（概要）</p> <p>学際領域を含めて高度な知識を有しており、技術課題に対して最善な解決策を提案し、それを実現してゆく創造性豊かな技術者</p>
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：学校HPで公表している。 https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/ ）
<p>（概要）</p> <p>秋田高専では、目標とする人材を育成するため、以下に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位（一般科目 80 単位以上、専門科目 87 単位以上、合計 167 単位以上）を修得した学生に対して卒業を認定する。（ ）は校訓・教育理念である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな人間性を備え、多様な価値観を理解し、技術者として責任ある行動がとれる。 2. 自然科学および工学基礎について専門的な知識と技術を有する。 3. 自主的に学び、自ら問題を発見・解決する能力を備え、協働して物事に取り組むことができる。 4. コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付け、グローバルな視野で物事を考えることができる。 5. 専門知識、融合複合領域の知識を統合し、創造力を組み合わせて問題を解決することができる。 <p>1~5 の細目は以下の A~E にそれぞれ対応する。</p> <p>(A) 人類の幸福</p> <p>(A-1) 自国と他国の社会と文化の違いを認め、健全で多様な価値観を理解できる。（健康・誠実）</p> <p>(A-2) 技術者倫理を理解し、技術者として責任ある行動をとることができる。（責任）</p> <p>(B) 工学基礎知識の修得</p> <p>(B-1) 数学、自然科学および情報技術に関する基本的知識を修得している。</p> <p>(B-2) 基礎工学と専門基礎の知識や技術を修得し、基本的な現象やシステムに対して説明と問題解析ができる。</p> <p>(C) 専門的知識の充実</p> <p>(C-1) 得意とする専門分野の問題を発見し、解決することができる。（自立）</p> <p>(C-2) 実験・実習科目を通して実践的な知識を身に付ける。</p> <p>(C-3) 企業での実体験などをもとに、地域や社会の要求している内容を理解できる。（協働）</p> <p>(C-4) 限られた時間内で、個別に、あるいはチームワークによって、技術的問題を含む課題に取り組み解決することができる。（協働・挑戦）</p> <p>(D) コミュニケーション能力</p> <p>(D-1) 正しい日本語で表現（記述・口述・討論）することができる。</p> <p>(D-2) 英語によるコミュニケーションに必要な基本的能力を身に付ける。</p> <p>(E) 技術の発展</p> <p>(E-1) 専門領域および複合領域の専門知識を統合して、目的を達成するための問題解決とデザインに寄与できる。（挑戦）</p> <p>(E-2) 技術分野の問題を理解し、自主的継続的に学びながら、開発・研究を行ってゆくことができる。（創造・研究）</p> <p>【機械系】</p> <p>機械系では、以下の資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認</p>

定する。

1. 機械システムコースでは四力学（材料力学，機械力学，熱力学，流体力学）を中心とした機械工学の基礎を修得するとともに，種々のエネルギー変換，動力変換，新素材等および加工技術に関する高度な専門知識を持ち，工学問題を解決するための総合的かつ実践的な能力を身につけることができる。

2. 知能機械コースでは四力学（材料力学，機械力学，熱力学，流体力学）を中心とした機械工学の基礎を修得するとともに，電気・電子，自動制御，計測および情報処理技術に関する高度な専門知識を持ち，工学問題を解決するための総合的かつ実践的な能力を身につけることができる。

【電気・電子・情報系】

電気・電子・情報系では，以下の資質・能力を身に付け，所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

1. 電気エネルギーシステムコースでは持続的発展型社会の基盤となる電気エネルギーの発生と供給，それを利用する機器とシステムに関する専門知識を有する実践的創造能力を發揮することができる。

2. 情報・通信ネットワークコースでは高度情報化社会の基盤となる情報処理と通信などの情報システムに関する専門知識を有する実践的創造能力を發揮することができる。

【物質・生物系】

物質・生物系では，以下の資質・能力を身に付け，所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

1. マテリアル・プロセス工学コースでは機能性材料の合成・評価や製造プロセスの運転・最適化に対応できる実践的技術を有し，持続可能な社会に貢献することができる。

2. バイオ・アグリ工学コースでは生物を活用した有用物質の生産・評価やバイオテクノロジーに関わる高度な実践的技術を有し，持続可能な社会に貢献することができる。

【土木・建築系】

土木・建築系では，以下の資質・能力を身に付け，所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

1. 国土防災システムコースでは防災と環境保全に配慮した土木に関する知識と技術を体系的に有し，関連分野における知識を複合的に活用して課題解決に適用できる。

2. 空間デザインコースでは建築および都市空間に関する知識と技術を体系的に有し，関連分野における知識を複合的に活用して課題解決に適用できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学校HPで公表している。

<https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/>)

（概要）

ディプロマポリシーに示した資質・能力を育成するため，以下のカリキュラムを編成する。

1. 豊かな人間性を備え，多様な価値観を理解し，技術者として責任ある行動がとれるように人文科学系科目を配置する。

2. 自然科学および工学基礎について専門的な知識と技術を修得できるように自然科学系科目，専門基礎科目を配置する。

3. 自主的に学び，自ら問題を発見・解決する能力を備え，協働して物事に取り組むことができるように体育科目，専門科目および実験・実習科目を配置する。

4. コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付け，産業社会におけるグローバル化に対応することができるように国語科目および英語科目を配置する。

5. 専門知識と融合複合領域の知識を統合し，創造力を發揮して問題を解決することができるように演習科目および基礎研究，卒業研究を配置する。

これらの科目群に係る単位修得の認定は，各学期の試験の成績，提出物，出席状況等を総合し，以下の区分により評価する。

評語	第1学年から第3学年	第4学年及び第5学年
優	100点～80点	100点～80点
良	79点～60点	79点～65点

可	59点～50点	64点～60点
不可	49点～0点	59点～0点

1～5の細目は以下のA～Eにそれぞれ対応する。

(A) 人類の幸福

(A-1) 健全で多様な価値観を理解できるように、全学年を通して人文科学系科目を配置する。

(A-2) 技術者として責任ある行動をとることができるように、5年次に技術者倫理を配置する。

(B) 工学基礎知識の修得

(B-1) 数学、自然科学および情報技術に関する基本的知識を修得できるように、全学年を通して自然科学系科目と情報基礎科目を配置する。

(B-2) 基礎工学と専門基礎の知識や技術を修得するために、低・中学年次に専門基礎科目を配置する。

(C) 専門的知識の充実

(C-1) 専門分野の問題を発見し、解決することができるように、高学年次に専門科目および複合融合科目を配置する。

(C-2) 実践的な知識を身に付けるために、全学年を通して実験・実習科目を配置する。

(C-3) 地域や社会の要求している内容を理解できるように、高学年次に特別講義と技術者倫理、校外実習を配置する。

(C-4) 個別に、あるいはチームワークによって、技術的問題を含む課題に取り組み解決することができるように、全学年を通して体育科目、高学年次では基礎研究、卒業研究を配置する。

(D) コミュニケーション能力

(D-1) 正しい日本語で表現することができるように、全学年を通して国語科目および演習、実験・実習科目を配置する。

(D-2) 英語によるコミュニケーションに必要な基本的能力を身に付けるために、全学年を通して英語科目を配置する。

(E) 技術の発展

(E-1) 専門領域および複合領域の専門知識を統合して、目的を達成するための問題解決とデザインに寄与できるように、全学年を通して演習科目および基礎研究、卒業研究を配置する。

(E-2) 技術分野の問題を理解し、自主的継続的に学びながら、開発・研究を行ってゆくことができるように、高学年次に基礎研究、卒業研究を配置する。

各系のカリキュラムポリシーは以下のとおりである。

(機械系)

機械系では、ディプロマポリシーに示した資質・能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

1. 機械システムコースでは新エネルギー分野、自動車・航空機産業分野および素材加工分野に関する高度な技術要請への対応力を修得させるために、四力学を中心とした機械工学の基礎的専門知識に加えて、熱工学、先端材料学、応用流体システム工学、計算法学、金属材料学および機械工作法など専門科目を配置する。

2. 知能機械コースでは産業ロボット分野、医療・福祉機器分野および人間の動作解析分野に関する高度な技術要請への対応力を修得させるために、四力学を中心とした機械工学の基礎的専門知識に加えて、制御工学、応用電子工学、計測工学、ロボット工学、医療福祉工学およびバイオメカニクスなど専門科目を配置する。

(電気・電子・情報系)

電気・電子・情報系では、ディプロマポリシーに示した資質・能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

1. 電気エネルギーシステムコースでは電気回路、電気磁気学、電気機器学、電子回路、電子工学、制御工学、組込み技術等を系統的に習得させるとともに、基礎的な融合複合領域

の知識を備えた創造性に富む実践力を習得できるように専門科目を配置する。

2. 情報・通信ネットワークコースではコンピュータシステム、プログラミング、ネットワーク、アルゴリズム、組込み系プログラム等を系統的に習得させるとともに、基礎的な融合複合領域の知識を備えた創造性に富む実践力を習得できるように専門科目を配置する。

(物質・生物系)

物質・生物系では、ディプロマポリシーに示した資質・能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

1. マテリアル・プロセス工学コースでは無機材料化学・有機合成化学・化学工学などの専門知識を習得し、実験・実習を通じて理解を深め、機能性材料の合成・評価や製造プロセスの運転・最適化などの応用技術を習得できるように専門科目を配置する。

2. バイオ・アグリ工学コースでは分子生物学・バイオ工学・生物化学工学などの専門知識を習得し、実験・実習を通じて理解を深め、生物を活用した有用物質の生産・評価やバイオテクノロジーに関わる応用技術を習得できるように専門科目を配置する。

(土木・建築系)

土木・建築系では、ディプロマポリシーに示した資質・能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

1. 国土防災システムコースでは防災と環境保全に配慮した土木の計画・設計・施工および保全のための技術を習得できるように、土木系分野における構造、水理、地盤、計画、材料、環境などに加え、関連する建築分野の専門科目を配置する。

2. 空間デザインコースでは建築および都市空間の計画・デザインおよび施工のための技術を習得できるように、建築系分野における計画・設計・構造・設備・施工などに加え、関連する土木分野の専門科目を配置する。

なお、カリキュラムの実施においては、以下の通りとする。

1. 1単位あたりの授業時数は、90分×15回を標準とする。

2. 自学自習や様々な授業形態における教育効果を考慮し、自学自習を含めて1単位あたり45時間の学習を要する「学修単位」科目を効率的に導入する。また、教育効果を上げるため授業形態は講義70%、演習15%、実験実習15%程度の割合で実施する。

3. 講義科目は定期試験の結果とレポートなどの平素の取り組みを総合して成績を評価する。演習・実技・実験・実習科目は課題への取り組み状況、レポート、発表などを総合して成績を評価する。卒業研究は研究成果をまとめた論文、研究発表、研究に対する姿勢などを総合して評価する。

4. 各科目の概要、到達目標、成績評価方法などはシラバスに明示する。

5. 成績はシラバスに記載された評価方法により行い、次の表の評価基準にしたがって評価し、1～3年次は50点以上、4～5年次は60点以上を合格と評価する。

評語	第1学年から第3学年	第4学年及び第5学年
優	100点～80点	100点～80点
良	79点～60点	79点～65点
可	59点～50点	64点～60点
不可	49点～0点	59点～0点

入学者の受入れに関する方針

(公表方法:学校HPで公表している。<https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/>)

(概要)

秋田高専は、卒業認定方針(ディプロマ・ポリシー)に定める人材を育成するために以下のような人を受け入れます。

1. 中学卒業レベルの基礎学力と学習習慣を身に付けている人(知識・技能)

2. 基礎学力を活用して考え、正しい判断と適切な表現ができる人(思考力、判断力、表現力)

3. 自分の考えに基づき、他者と対話し、協力できる人(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

4. 社会のルールを守り、目標に向かって継続して努力を続けることができる人

<p>5. 本校の専門分野（機械系，電気・電子・情報系，物質・生物系，土木・建築系）に関する知識を深め，新しいことにチャレンジする意欲のある人 （入学者選抜方針）</p> <p>1. 推薦選抜 在籍学校長から推薦された志願者について，調査書に重点を置くとともに，面接を行い，総合的に評価する。</p> <p>2. 学力選抜 国語・数学・理科・英語の学力試験に重点を置くとともに，調査書により，総合的に評価する。</p> <p>3. 帰国生徒特別選抜 数学・理科・英語の学力試験に重点を置くとともに，調査書と自己推薦書により，総合的に評価する。</p> <p>4. 後期特別選抜 調査書に重点を置くとともに，面接を行い，総合的に評価する。</p>
--

<p>学部等名 グローバル地域創生工学専攻</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：学校HPで公表している。https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/）</p>
<p>（概要）</p> <p>教育理念 自立した人間形成，新しいことへ挑戦する心，自由な発想を実現する創造力の育成</p> <p>教育目標 社会が必要とする人材の養成</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：学校HPで公表している。https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/）</p>
<p>（概要）</p> <p>専攻科では，目標とする人材を育成するため，準学士課程で修得した基礎及び専門技術に加え，以下に掲げる資質・能力を身に付け，所定の単位（一般科目12単位以上，専門科目50単位以上，合計62単位）を修得した学生に対し修了を認定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 工学分野で共通して必要となる幅広い自然科学・社会文化の知識を有する。 2. 自らの専門分野を基盤とし，他の専門領域との融合を可能とする分野横断能力を身に付け，広い視野で思考する力を有する。 3. 日本語による表現能力（記述・口述・討論）と科学技術の国際化に対応できるコミュニケーション能力を備えている。 4. 自ら課題を発見し，想像力を発揮するとともに，他者と協働しながら問題を解決へと導くことができる。 <p>【機械工学コース】 機械工学コースでは，以下の資質・能力を身に付け，所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。 新たな機械システムや知能機械などの開発・製造並びに応用技術に関する高度な知識と技術を体系的に有し，工学的課題の解決に応用できる。</p> <p>【電気情報工学コース】 電気情報工学コースでは，以下の資質・能力を身に付け，所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。 ICTを駆使した先端デバイスによる電気機器システム並びに応用技術に関する高度な知識と技術を体系的に有し，工学的課題の解決に応用できる。</p> <p>【物質工学コース】 物質工学コースでは，以下の資質・能力を身に付け，所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。 新物質・生体由来素材等の製造並びに応用技術等に関する高度な知識と技術を体系的に有</p>

し、工学的課題の解決に応用できる。

【建設工学コース】

建設工学コースでは、以下の資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。

社会基盤の整備・防災・保全技術、都市及び地域の計画・デザイン技術に関する高度な知識と技術を体系的に有し、工学的課題の解決に応用できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学校HPで公表している。
<https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/>）

（概要）

ディプロマポリシーに示した資質・能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

1. 工学分野で共通して必要となる幅広い自然科学・社会文化の知識を修得できるように、一般科目を配置する。
 2. 自らの専門分野を基盤に、他の専門領域と融合できる分野横断能力を育成するため、概論・総論科目と演習科目を配置する。
 3. 日本語による表現能力（記述・口述・討論）を修得できるように特別研究（論文執筆、発表会）を設ける。また、コミュニケーション能力を身に付け、科学技術のグローバル化に対応できるように英語科目を配置する。
 4. 自ら課題を発見し、本質を理解した上で、論理的かつ想像力を発揮し、他者と協働しながら問題を解決に導くことができるように、演習科目、特別研究を配置する。
- これらの科目群に係る単位修得の認定は、各学期の試験の成績、提出物、出席状況等を総合し、以下の区分により評価する。

優:80点以上

良:65点以上 79点まで

可:60点以上 64点まで

不可:59点以下

【機械工学コース】

機械工学コースでは、ディプロマポリシーに示した資質・能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

機械工学コースでは、新たな機械システムや知能機械などの開発・製造並びに応用技術に関する高度な技術と応用能力を身に着けた技術者を育成するため、高速流体力学、伝熱工学、振動工学、精密加工学、メカトロニクス、生産システム工学に関する専門科目を配置する。

【電気情報工学コース】

電気情報工学コースでは、ディプロマポリシーに示した資質・能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

電気情報工学コースでは、ICTを駆使した先端デバイスによる電気機器システム並びに応用技術に関する高度な技術と応用能力を身に付けた技術者を育成するため、情報理論、エネルギー変換工学、光電子工学、画像処理工学、システム情報工学、応用電磁気に関する専門科目を配置する。

【物質工学コース】

物質工学コースでは、ディプロマポリシーに示した資質・能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

物質工学コースでは、新物質・生体由来素材等の製造並びに応用技術等に関する高度な技術と応用能力を身に付けた技術者を育成するため、反応工学、微生物工学、有機合成、電気化学、高分子、無機分析化学に関する専門科目を配置する。

【建設工学コース】

建設工学コースでは、ディプロマポリシーに示した資質・能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

建設工学コースでは、社会基盤の整備・防災・保全技術、都市及び地域の計画・デザイン技術に関する高度な技術と応用能力を身に付けた技術者を育成するため、構造力学、コンクリート工学、地盤工学、防災システム工学、緑化保全工学、地域計画学に関する専門科

目を配置する。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法:学校HPで公表している。https://www.akita-nct.ac.jp/school/rinen/)</p> <p>(概要)</p> <p>秋田高専は、修了認定方針(ディプロマ・ポリシー)に定める人材を育成するために以下のような人を受け入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 工業高等専門学校レベルの資質・能力を有している人(知識・技能) 2. 専門基礎学力を活用し、論理的に判断できる人(思考力、判断力、表現力) 3. 自分の考えに基づき、異分野とも交流し、協働できる人(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度) 4. 目標に向かって探求心と粘り強さを持って取り組む人 5. 本校の専門分野(機械系、電気・情報、物質、建設)に関する高度な技術を修得し、想像力を持って課題解決に取り組む意欲のある人 <p>(入学者選抜方針)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 推薦選抜 在籍学校長から推薦された志願者について、調査書に重点を置くとともに、面接を行い、総合的に評価する。 2. 学力選抜 数学・物理学・英語・専門科目の学力試験に重点を置くとともに、調査書と面接により、総合的に評価する。 3. 社会人特別選抜 面接(口頭試問を含む。)に重点を置くとともに、調査書により、総合的に評価する。 4. 外国人留学生特別選抜 面接に重点を置くとともに、外部試験により、総合的に評価する。

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法:学校HPで公表している。 https://www.akita-nct.ac.jp/course/ https://www.akita-nct.ac.jp/school/soshiki/</p>
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
—	—	20人	22人	6人	5人	0人	53人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
0人				25人			25人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://research.kosen-k.go.jp/researcher-list/?page=1&limit=30&districtId=02&affiliationId=652800000					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
創造システム 工学科	160人	141人	88.1%	800人	780人	97.5%	若干名人	2人
合計	160人	141人	88.1%	800人	780人	97.5%	若干名人	2人
グローバル地域創 生工学専攻	16人	22人	137.5%	32人	38人	118.8%	—	—
合計	16人	22人	137.5%	32人	38人	118.8%	—	—
(備考)								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
創造システム 工学科	120人 (100%)	43人 (35.8%)	75人 (62.5%)	2人 (1.7%)
合計	120人 (100%)	43人 (35.8%)	75人 (62.5%)	2人 (1.7%)
グローバル地域 創生工学専攻	19人 (100%)	4人 (21.1%)	14人 (73.7%)	1人 (5.3%)
合計	19人 (100%)	4人 (21.1%)	14人 (73.7%)	1人 (5.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業計画（シラバス）の作成過程 <p>事務担当者からの作成依頼に基づき、Web シラバスシステムを活用し、授業担当教員が必要事項を入力している。到達目標、成績評価の方法や基準といった事項については、システムの様式が全高専統一の基準にて設定されているため、遺漏なく入力されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業計画の作成・公表時期 <p>授業計画の作成は、12月に授業担当教員に作成依頼を行い、1月と2月に1次締切、2次締切を設けている。公表時期については、Web シラバスシステムを活用しているため、4月に高専機構本部にて一斉に公開設定を行っている。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 単位授与または履修認定の厳格かつ適正な実施状況 <p>「秋田工業高等専門学校学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則」に基づき、厳格かつ適正に単位授与及び履修認定を実施している。</p> <p>【規則6条及び7条抜粋】</p> <p>(試験の成績の評価)</p> <p>第6条 学期の成績は、その学期において実施した試験の成績及び平素の成績等を総合して100点法により評価する。</p> <p>(学年成績の評価及び評定)</p> <p>第7条 各科目の学年成績は、当該授業科目の実授業時数の4分の3以上の出席がある科目について、試験の成績及び平素の成績を総合して100点法により評価し、次の区分により優、良、可、不可の評語で評定し、優、良、可を合格とする。出席が当該科目の4分の3に満たない場合は、第1学年から第3学年は49点以下、第4学年及び第5学年は59点以下の点数で評価して、不可と評定する。ただし、運営会議が認める理由（長期病欠その他）で、3分の2以上の出席がある場合については、4分の3以上の出席がある場合と同様に評価し、優、良、可又は不可で評定する。</p>															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>学科名</th> <th>卒業又は修了に必要な となる単位数</th> <th>GPA制度の採用 (任意記載事項)</th> <th>履修単位の登録上限 (任意記載事項)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>創造システム工学科</td> <td>167 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td></td> <td>グローバル地域創生工学専攻</td> <td>62 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> </tbody> </table>	学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)		創造システム工学科	167 単位	有・無	単位		グローバル地域創生工学専攻	62 単位	有・無	単位
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)											
	創造システム工学科	167 単位	有・無	単位											
	グローバル地域創生工学専攻	62 単位	有・無	単位											
GPAの活用状況（任意記載事項）	公表方法：														
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：														

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：学校HPで公表している。

<https://www.akita-nct.ac.jp/facilities/>

<https://www.akita-nct.ac.jp/campus/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
	創造システム工学 科	234,600円	84,600円	8,400円～ 9,600円	寄宿料 8,400円(複数人居室) 9,600円(個室)
	グローバル地域創 生工学専 攻	234,600円	84,600円	8,400円～ 9,600円	寄宿料 8,400円(複数人居室) 9,600円(個室)
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 「秋田工業高等専門学校における障害学生に対する修学支援要項」に基づき、身体障害、知的障害、精神障害(発達障害を含む。)その他の心身の機能の障害(以下「障害」と総称する。)があり、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にある学生から支援の要請があった場合に(1)障害の現状把握に関すること、(2)学習状態、学校生活及び寮生活に関すること、(3)就職活動の支援に関することなどの支援を実施している。 また、「秋田工業高等専門学校授業料等免除及び徴収猶予に関する規則」に基づき、経済的理由等により納付が困難な申出者の免除、徴収猶予及び月割分納を実施している。 加えて、専攻科入学予定者のうち、日本学生支援機構の給付型奨学金を希望する者については、同奨学金への応募を確認の上、採否が決定するまで、入学料および前期授業料の徴収を猶予している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 学生に現場における生産の技術を総合的に修得させ、技術者としてのあり方や自発的な研究態度を養うことを目的とする「校外実習(インターンシップ)」を実施している。 さらに、工場及び施設の設備、生産工程等見学し学校で習得した専門の知識、技術をより効果的に向上、発展させるとともに実社会の生きた知識を身に付けさせることを目的に、授業の一環として「工場見学旅行」を実施している。 また、県内就職定着を目的とした「県内企業説明会」の実施、及び4学年学級担任が保護者面談を実施し、進路指導を行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 保健室では、常勤看護師に加えて非常勤看護師を配置し、保健室機能を強化して、緊急体制の万全化を図り、更に健康管理における個別指導や、メンタルヘルスの問題への対応等、学生に対する支援の充実を図っている。 学生相談室では、学内の相談室員に加え、精神科医、専門のカウンセラーを配置して、学校における保健管理に関する専門事項について適切な助言及び指導をいただき、学生の心の悩み等に総合的に対応している。あわせて、アンケート・調査を行い、必要な学生に対して面談を行う等、問題の早期発見に対応している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：学校HPで公表している。

<https://www.akita-nct.ac.jp/school/kyouikukenkou-kohyo/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	G105110101166
学校名 (〇〇大学 等)	秋田工業高等専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生 (内数) ※家計急変による者を除く。		50人 (27) 人	53人 (33) 人	56人 (33) 人
内 訳	第Ⅰ区分	15人	11人	
	(うち多子世帯)	(一人)	(一人)	
	第Ⅱ区分	- 人	- 人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(一人)	
	第Ⅲ区分	- 人	- 人	
	(うち多子世帯)	(一人)	(一人)	
	第Ⅳ区分 (理工農)	0人	0人	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	- 人	- 人	
	区分外 (多子世帯)	14人	21人	
家計急変による 支援対象者 (年間)				0人 (0) 人
合計 (年間)				56人 (33) 人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	- 人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 <small>（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が廃止の基準に該当）</small>	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	0人
計	人	0人	- 人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	人
前半期	0人
後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	- 人
訓告	0人
年間計	- 人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	- 人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	- 人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。